

くわな IoT 推進ラボ協議会（グリーン IoT ラボ・桑名）通常総会 議事要旨

<p>日時・場所</p>	<p>令和8年5月19日(火) 10:30~11:45 市役所3階第2会議室</p>
<p>出席者</p>	<p>出席者 11名 (敬称略) <会員 10名> NTN株式会社 未来創造開発本部 自然エネルギー商品ユニット ユニット長 梅本 秀樹 桑名商工会議所 専務理事 久保 康司 桑名三重信用金庫 常務理事 益川 幸夫 丸紅株式会社 執行役員 中部支社長 笠井 信司 丸紅新電力株式会社 社長補佐 児玉 一也 ユナイテッド・セミコンダクター・ジャパン株式会社 三重工場 副工場長 西川 勝也 株式会社エスプール 自治体みらいカンパニー カンパニー長 浅川 匠弥 NTT 西日本株式会社 三重支店 ビジネス営業部 エンタープライズビジネス営業部門長 堀 憲司 中部電力株式会社 経営戦略本部 戦略グループ グループ長 本郷 徹 桑名市 副市長 水谷 準</p> <p>アドバイザー 1名 三重大学 大学院地域イノベーション学研究所 教授 西村 訓弘</p> <p>市出席者 事務局 5名</p>
<p>会議次第</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 挨拶 3. 議題 <ul style="list-style-type: none"> 第1号議案 令和7年度事業報告及び決算報告について 第2号議案 役員改選について 第3号議案 令和8年度事業計画(案)及び予算(案)について 4. 報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ①令和7年度の取り組み状況について ②令和8年度の取り組みについて 5. 意見交換 6. その他

概要
(主な意見)

2 会長（桑名市副市長）挨拶

当協議会は設立から5年が過ぎたところだが、皆様には総会や分科会において、様々な意見や提案をいただき、この地域のゼロカーボンの取り組みに大きな貢献をいただいている。改めて御礼を申し上げたい。

世界に目を向けてみると、イラン、あるいはホルムズ海峡における地政学的なリスクによるエネルギー供給の不安定さも顕在化している。GX、いわゆるグリーントランスフォーメーションを進めているところだが、GXは環境対策、気候変動対策という側面もあるが、地産地消の再エネを拡大することで持続可能なエネルギー構造に転換し、地域のエネルギー安全保障の強化をしていこうというものである。このような取り組みを企業の皆様と一緒に進めていくことの意義が、かつてないほど高まっていると感じる。

また国内でも、昨年閣議決定された第7次エネルギー基本計画において、GX推進と並んでエネルギー安全保障も政策のポイントとしてあげられており、その実行に向けて重要な局面を迎えていると言える。

例えば、本年度からはCO2の排出量の取引制度が、一定規模以上の企業に対し義務化されることが始まっている。これまでは制度を整える段階だったが、実際にCO2を削減するという実績が求められる段階に移ってきている。

このような激動する時代において、脱炭素の取り組みは、単なるコストあるいは負担であると捉えるのではなく、これまで以上に企業の皆様と自治体の手を取り合って脱炭素社会を実現していくと同時に地域課題の解決を目指していく姿勢が重要になってくる。

また、昨年度、環境学習モデル事業ということで、市内の中学校において地球温暖化や脱炭素の取り組みを学び「2050年の未来の桑名について考える」プログラムを実施し、会員企業様の多大なるご協力をいただいた。未来の子供たちに誇れるような持続可能な社会を残していくことは大変重要なことだと考えている。

その他、昨年度の実績や今年度の取り組みの計画等については後ほど説明、報告をするが、環境と経済の好循環を生み出し、ゼロカーボンシティの実現を目指すためには、市の取り組みだけでなく、地域を代表する、あるいは日本を代表する企業の皆様に集まっていたいので、この協議会を主体として実効性のある取り組みを益々増やしていきたい。ぜひ会員の皆様の率直な忌憚のない意見、提案をいただき、自由闊達な議論が行われることを期待している。

【初めて出席される会員様からの挨拶】

この4月の着任前までは5年ほどインドネシアにいたが、インドネシアも環境や脱炭素について関心が高く、インドネシア政府へ日本としてできることを提案すると大変興味を持ち、取り組んでいかなければならないという姿勢になっていた。日本の技術は、長期的な視点で信頼されており、日本で実証されたことが将来的に世界へ広がっていくことを肌で感じた。この協議会を通してできたモデルを世界でも実施していきたいと思うのでよろしく願いしたい。

会長の話にあった「脱炭素はコストではない」という考えには、心から共感している。以前の部署名は自治体環境みらいカンパニーだったが、環境としてできることは限られているので現在は環境という文字を外している。脱炭素のことを考えると公共交通など様々な分野を横断して展開していかなければ攻めに転じられない。脱炭素を目的とするのではなく、あくまで地方を豊かにするために脱炭素に取り組んでいきたい。今後展開する様々な分野で協力できる場所はしていきたいのでよろしく願いしたい。

3 議題

事務局から資料1をもとに説明。

第1号議案 令和7年度事業報告及び決算報告について、議長は事務局からの説明を求め、事務局からの説明と監事からの会計監査報告を経て、その承認を求めたところ、満場異議なく承認可決した。

第2号議案 役員の改選について、規約第5条第4項に基づき会長に桑名市副市長水谷準氏、監事に桑名三重信用金庫 常務理事 益川幸夫氏の再任を提案したところ、満場一致をもって承認された。

第3号議案 令和8年度事業計画（案）及び予算（案）について、議長は事務局からの説明を求め、その後、その承認を求めたところ、満場異議なく承認可決した。

4 報告事項

事務局から資料2～3をもとに説明。

【環境学習モデル事業に参加した企業の感想】

・中学生という若い人たちと普段触れ合うことがないため、非常に良い機会となった。大人では思いつかない斬新な見方があり、様々な気づきがあった。また、社内でその未来をどう創っていくかという会話にも至った。次回はまた異なる角度からの環境学習を実施しても面白いのではないかと感じた。

・非常に刺激になった。若手社員が授業を行うにあたって、自ら準備を行い、自社の活動を理解して言葉にして説明をするということ非常に良い機会になった。また生徒の皆様も楽しめたということで良かった。発表会もバラエティに富んだ内容だったため、長時間ではあったものの非常に楽しく聞くことができた。

・他の地域で行っている環境学習とは、毛色が違うと感じた。主に津田学園さん側の協力体制、生徒の意欲は他の地域以上だった。一方で今後公立学校への展開となった場合の運営側への負担は課題として挙がっているため、今後市とも相談していきたい。

・なぜ環境を守らなければいけないのかという社会のありようから話をしたが、熱心に聞いてくれた印象。なぜこれをやるのか、ということも含めて話をした。環境だけを切り取ってやってしまうと、イベント的な形で終わってしまう可能性があったため、もっと深く本質的なところを考えさせる内容とした。講義の前に津田学園さんと内容について議論した際もそこから行って欲しいとの話もあり、一般的な内容よりも踏み込んだものにできたのではないかと感じる。

5 意見交換

事務局から資料4、別紙1をもとに説明。

・以前から環境だけで話すことより、将来的に生徒たちが自社を選んでくれるように、何をしている会社なのか、どのような社会貢献を行っているのかを盛り込みたいと思っていた。昨今の学生さんたちが企業を選ぶ際には、この会社は社会貢献をどれだけ行っているのか、自分がこの会社に入ったときにどのような貢献ができるのかということを知りたい。我々としても社会貢献を意識した人材が欲しいため、生徒の心に環境を含めた社会貢献を根付かせたいと考えている。

また、自社では防災についても力を入れている。停電の際に、安全で安心な場所の提供ができるような商材を扱っているため、そのようなところも含めて話をしたい。熊本地震の際、地元の高校において、高校生は守られる立場ではなく守る立場ということで、地域を守るような組織を作るための防災教育に力を入れられていた。今回、対象が中学3年生ということで、環境と防災と併せながら高校生になるにあたってのアドバイスなども盛り込んでいきたい。また、なるべく継続的に行いたいと考えている。

・環境、脱炭素は長期目線で見るとやるべきものであり、子どもの未来のためにやることだと考えている。50分という制約はあるが、総合商社全体での環境の取り組み

については紹介できると思う。また、自身に考えてもらうようなセッションにしたい。環境を守るためにはお金もかかるため、サステナブルなものにしなければいけない。そのための資金づくりをどのように行うかという目線も重要になる。どのようなビジネスモデルに発展させるか、意見を出してもらい2050年に向けてのビジネスの組み立て方を教えられるようなものにできれば良い。1回では終わらないと思うので、何回か繰り返すようなセッションを検討し、できる範囲で協力していきたい。

- ・同じ業種で発電から販売まで担っている会員企業様がいらっしゃるため、電力会社としての仕事や役割に関する部分はお譲りしたいと思う。また、グループとして、新電力での役割等できる部分で協力していきたい。

- ・半導体製品が社会にどのような貢献をしているのか、また様々な産業に影響しているため、そのような内容をお話していきたい。環境に関しては、工場を運営していくにあたってどのような環境対策をしているのか、台湾の状況も含めてお話しできると思う。ただ、工場見学については、性質上厳しい。出前授業について協力していきたい。

- ・当社は発電から販売まで行っている。テーマとしては、「エネルギーと環境」、「資源が有限であること」、「地球温暖化」、「どのように発電され、どのように電気がお客様のもつに届くか」といった話ができるかと思う。加えて、電力会社の仕事の話もできる。また、名古屋の伏見にでんきの科学館というPR展示施設があり、小学校の高学年もしくは中学生向けにでんきの科学館のスタッフによる出前教室を用意している。このプログラムを実施することも可能。場合によっては高校や大学向けに社員が授業をすることもするため、内容を少しアレンジして実施することも可能かと考えている。

- ・「地球温暖化とは」などの基礎的な部分を事前学習や第1回目に我々が授業させてもらい、第2回目以降に各会員企業様に詳しく話をしてもらおう方が良いかと考えている。その中でご提案できるものとしては2点あり、1点目は、当社がもともと人材派遣会社であることから、ソーシャルビジネスという社会問題解決型事業を展開していくことをミッションに掲げているため、様々な社会問題に対して直接ビジネスを作ることを行っている。そのような視点でワークショップやビジネスコンテストはできる。2点目としては、ある自治体様と作った脱炭素経営ゲームというものの実施。一企業の社長になって毎年方向性について意思決定をしてもらい、最終的なCO2排出量と手持ち資本金がどれくらいになるかを競ってもらおうゲーム。このような内容もご提供できる。基本原則は具体的に事業をやられている会員企業様が魅力的に見えるという形が一番良いかと考えている。

- ・まずグループ全体がどのような仕事を行っているかを説明するが、自社において日本全国の1%、およそ87億kWの電力を使用している。世帯数で換算すると248万世帯が消費する電力に値する。桑名市が6万世帯とすると桑名市の約40倍の電力を消費していることになる。このことから、自社の消費電力を削減することが一番の使命であるため、自社の取り組みについて、失敗事例などを含めて話をしたいと考えている。近年では、AIが身近になっており、便利ではあるが、AI壁打ちをするうえでも電力を使用している。これに対して通信会社としてはどのようなことをしているのかという話もしていきたい。

- ・信用金庫としては、地元のお金を地元の繁栄のために使っていただくという考えのもと、実際に取り組んでいるサステナビリティ・リンク・ローンや脱炭素支援メニュー、省力化投資補助金があるが、中学生向けの環境学習としては少し難しいかと感じる。そこで、毎年、高校生向けに行っている、キャッシュレスやクレジットカードの機能、そしてそれぞれの違いについてを説明する金融教育を中学生のレベルに合わせて行うことができればと考えている。

・商工会議所というのは地域の中小企業の皆様を支援する団体であるという説明に加え、地域の中小企業でも省エネやリサイクルをしている事業者があるため、その紹介ができればと考えている。例えば、潤滑油を使用したオイルをフィルターを通して再生して利用したり、桑名で有名な鋳物関係で使用した廃材を専門に処理する事業者がいる。鋳物の廃材処理については、数が少なく東海圏から依頼がある。中小企業であることからあまり知られていないため、桑名にどんな会社があるのかという話をしていきたい。そのほか食品ロスなど、CSRの活動を行っている企業をピックアップして紹介するようなイメージで考えている。ただ、事業者様の了解も得る必要があるため、その点も踏まえながら題材を探して取り組んでいきたい。

・環境だけで物事を見ると生徒に響かない。AIの時代では、知識を覚えてもあまり意味がなく、いかに身につけた知識を使いこなすか、そこからどうやってクリエイティブするかが重要となる。今回津田学園さんから求められて行う環境学習は、環境という切り口から見た社会を知り、その社会の中で環境を絡めたときに企業はどのようなことをしているか、企業とは何なのか、というように社会を知ることと繋げていってほしい。

大学1年生の4月から15回連続で社長の話を聞かせている。活躍している社長たちが一体どんなことをやっているかを聞くことで学生の感覚が変わってくる。自分が想像している閉じた世界でなく、もっと大きな世界を知ることが結果的に日々の学習効果を上げていく。だからこそ、第一線の話をしてあげた方が良い。中学生でも構造は理解することはできるので、難しい言葉はたとえを入れたり、言葉を選びながら教えれば良い。第一線で活躍している企業がどんな考え方で何を解決するために仕事をしているのかということについて、環境を1つのキーワードとしながら話をしていくと津田学園の教育が上がっていくのではないかと。

概ね18年間、毎年同様の講義をしていて、全員から感想を書かせているが、ここ2年ぐらいで急激な変化を感じている。環境に対する危機感や恐怖感、今後自分たちはどうやって生きていくのかということに対しての戸惑いが相当出てきている。ただ、社長たちの話からこうしたら良いというのを感じ取ると、自分の活躍する場を探し始め、自ら進んで学習し始める。プレッシャーをかけるわけではないが、子どもたちの成長に相当影響があると思うので、日々取り組んでいる活動を忌憚なく伝えるのが良いかと思う。

【令和9年度の環境学習についての確認事項】

- ・中学3年生は全員で何人程度か。
- ・昨年度実施の際は、おおよそ20名前後。令和9年度の生徒数については別途確認を行う。

【ラボ全体を通しての共有事項等】

・脱炭素に関するものとして、中小企業が中心とはなるが、脱炭素に取り組むことを宣言すると、三重県信用保証協会さんの保証付きで保証料が安くなるという商品をご数年取り扱っている。ただ、大手企業含めて具体的な脱炭素の数値目標が出てきていないので中小企業としても数値としてはなかなか出てきていない。

・IOWNに関して、昨年度は万博にも出店したが、データ伝送容量は125倍、電力は100分の1、遅延は200分の1となる。我々の電力を削減することにもなり、全世界にも影響がある。デモ等の機会があればぜひ見学会などさせていただきたいと思う。

・中部支社の1階にアゴラというイノベーションスペースを3年前に作った。800社以上の企業様、2300名様が会員になっている。脱炭素や環境、モビリティなどいろいろなテーマを決めてイベントを行い、新しいイノベーションを創り出そうという取り組みを行っている。無料で実施しており、全国から来ていただいている。何かヒントを得ていただけるのではないかとと思うので気軽に来ていただきたい。

6 その他

次回、くわな IoT 推進ラボ協議会実務担当者会議を 11 月頃に開催予定。詳細な日程等々については、決まり次第事務局から各担当者に連絡させてもらう旨案内。

・今回いただいたご意見を津田学園さんへお伝えし、令和 9 年度の環境学習をどのような形で進めていきたいか対話を行い、また実務担当者会議を通して具体的に進めていきたいと考えているので引き続きご協力をお願いしたい。

以上